

## 稲沢市立小正小学校 研究の概要

### 1 学校の現状（児童生徒の実態・既存の取組）における成果や課題

現代の子どもたちは、核家族化や地域の人々とのふれあいの減少などから、人間関係を築く力を学ぶ機会が少なくなり、よりよい人間関係を築くことができなくなっている。そのため、他人や集団社会のことを考えて行動することよりも、自己主義的な考え方をする傾向が強くなっている。本校においても、「自分にとっての損得を優先して、判断してしまう児童」「相手の気持ちを考えずに行動してしまう児童」「自分の思い通りにしないと、他人を攻撃してしまう児童」がみられる。

本校では、平成27年度「思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築く児童の育成」をテーマに研究を進めてきた。特別活動や道徳を中心に、話し合い活動や異学年との交流活動を通して、他者を理解し、互いに認め合うことで、集団における自己の役割を認識したり、交流活動での充実感を味わったりすることができた。しかし、自己肯定感や自己有用感に関して、自己内での高まりを実感するまでには至らなかった。

そこで、平成28年度の研究テーマを「思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築く児童の育成」（2年次）として研究を継続していく。そして、児童が自己肯定感や自己有用感を実感できるように、交流活動において自己の目標を設定させ、目標に対する振り返りを工夫する。また、教師や保護者、地域の方で児童のよさを認め合えるように、学校と家庭・地域と情報共有や行動連携を図っていく。

### 2 研究のねらい・実践計画

#### 【ねらい】

- (1) 各教科等において、発達の段階に応じた意見の交流の場をつくり、相手の考えを聞き合えるような指導方法の改善を図れば、思いやりの心をもって、相手の立場に立って判断しようとする児童が育成できるであろう。
- (2) 学校教育活動において、学校と家庭・地域と協働して児童の自己肯定感や自己有用感を高める活動を工夫すれば、自ら他者とよりよい人間関係を築こうとする児童が育成できるであろう。

#### 【自校のテーマ】

「思いやりの心を持ち、よりよい人間関係を築く児童の育成」

－ 相互理解を深める交流活動や学校と家庭・地域との協働による取組を通して －

#### 【具体的な実践内容】

- (1) よりよい人間関係を築くための教育方針の設定や保護者・地域との共有
  - よりよい人間関係を築くための基礎として、基本的な生活習慣を定着させる。その重点目標として「あいさつ・返事・うた・掃除 時間厳守の小正っ子」を設定し、家庭、地域と共有していく。
    - ・ 入学式やPTA総会など、保護者に向けて教育方針を伝え、学校と家庭で共有する。また、Web ページや学校だより等で、家庭だけでなく地域にも学校の教育方針を発信していく。
    - ・ 教育方針を踏まえ、児童会のスローガンを作成し、それに基づいた児童会活動、委員会活動、学級活動等を計画する。

(2) よりよい人間関係を築くための取組と保護者・地域との行動連携の充実

○ 発達段階に応じた意見交流活動の充実

- ・ 思いやりの心をもって、相手の立場に立って判断しようとする態度を育むために意見交流活動を各教科等の授業に取り入れ、意見交流活動後に自己評価や他者評価をし合う場を設定する。

※ 行事中での異学年交流の実施

「ふれあい給食」「ふれあい読み聞かせ」「ふれあい遊び」「ふれあい鑑賞」「ふれあい清掃」など

○ 児童の道徳的価値を深めさせる指導の工夫

- ・ 「親切」「協力」「友情」などの思いやりに関する道徳的心情・価値観を高める指導の工夫を行う。 ※ 道徳の授業研究実施

○ 学校と保護者・地域との情報共有・行動連携の充実

- ・ 学校、家庭や地域での児童の様子を伝え合う場の設定
  - ア 学校だより、学年通信、Web ページ等を通じて、交流活動や人間関係に関する児童の様子を発信する。
  - イ 学校での様子について家庭で話題に上がったことを連絡していただけるように学年通信等で促す。

※ 学年通信にコメント欄を設け、学校や行事への保護者の意見や感想や聞く。寄せられた意見を家庭・地域へ発信する。

○ 学校と家庭・地域が連携して取り組む活動の設定

- ・ 交通安全教室への参加を促し、交通安全について親子で考える機会を設定する。
- ・ 3年生以上の児童が児童学校保健委員会への参加を促し、保護者の立場からも意見をいただく。
- ・ 情報モラル出前授業に6年生親子で参加し、スマートフォンの利用について家庭で考える話題を提供する。
- ・ P T Aと地域の各種団体が主催する親子奉仕活動に児童、教師が参加する。  
※8/22 実施 まちづくり委員・P T A・児童・教師参加
- ・ 体育振興会主催のふれあい運動会に教師も準備、運営、競技等に参加する。  
※9/24 実施 午前・学校プログラム 午後・まちづくりプログラム

○ 振り返りシートでの認め合い

- ・ 行事や交流活動での取組について、児童が年間を通して積み重ねていく振り返りシートに、教師と保護者のそれぞれの立場から言葉を書き添える。

(3) 交流活動の振り返りとその活用の工夫

○ 学期ごとに学校評価アンケートを児童、保護者、学校評議員、教職員を対象に実施し、よりよい人間関係の構築に向けた児童間や学校と家庭・地域との交流活動に関する評価・意見を集約する。その結果を学校だよりに掲載して、家庭・地域に伝えていく。

○ アンケート等の結果を基に、校長を中心に教頭・教務主任・交流活動担当で今後の方向性を検討し、それをP T A役員会、P T A全委員会や学校評議員会等で取り上げて、学校と家庭・地域と共通理解を図っていく。

【活動の評価方法】

- (1) 「振り返りシート」の記述から、児童の自己肯定感や自己有用感の高まりをみていく。
- (2) 学校評価アンケートの結果から、児童のよりよい人間関係構築に向けた交流活動に対する児童・保護者・学校評議員・教職員の評価を分析する。